

ぎんなん幼稚園様 研修に参加して

今回の研修で主に年少のクラスに入り保育の様子を拝見させていただいた中で学び得たことが多くあり、その中でも3つのがとても印象に残りました。

1つ目は先生方の子ども達に対する声かけです。体育ローテーションの際、子ども達が集中しやすいよう先生方の声かけは少なく、BGMの音楽をしっかりと聞きながら取り組める環境が出来ていると感じました。また、次の行動の声かけも明確で子ども達が素早く行動する姿を見て、子ども達の集中が途切れていない環境がどのような場なのかを改めて学びました。日頃のChicksでのサーキットやマラソンでは沢山の応援の声かけを行うよう意識しています。しかし、子ども達の中に涙する姿が見られたり参加したがらない際に、子ども達全員が楽しく参加できる声かけが未熟な点の1つでもあるため、再度自分の声かけが具体的で明確な集中して取り組みやすい声かけが出来ているのかを振り返り、普段の保育をより良くしていきたいです。

2つ目は環境作りや整理整頓についてです。お部屋での様子は年少に限らず他の学年も拝見させていただきましたがどのクラスも収納棚が多く配置されてあるため個人の荷物は1か所のみにまとめず各種類に分けての収納が可能なため、どこの棚に何があるのか分かりやすく机の中の収納も製作時スムーズに活動に取り組めるよう準備が出来ている様子を見て、改めて活動に取り組む中で集中して楽しめる環境作りが必要であるかを学びました。お部屋の環境を見ていて、収納棚が多い少ないに限らず、決められたスペースの中でしっかりと整理整頓することは共通しているので、自分自身も子ども達の手本となるよう部屋の整理整頓を意識し、保育が行いやすい環境を作りたいです。

最後に3つ目は1つ目の子ども達への声かけも含まれますが、約束事の徹底についてです。返事や話を聞く時の子ども達の姿勢や視線を全員がきちんと出来るまでは次の行動に進まない徹底した環境を見て、普段自分自身も約束事は曖昧にならないよう意識していましたがそれでも自分の保育の様子とは差があると感じました。子ども達の集中が続き、集中が途切れたとしても再度きちんと取り組めるようにするためにも先生の声かけが明確でないといけないと改めて思いました。当たり前のことを一人ひとりがしっかりと行えるよう、先生が直接手伝い教えることよりも声かけを工夫し、自分のことは自分で出来るよう促す環境を作ることが大切であり、より徹底することが出来るのではないかと考えました。

今回の研修を通して刺激を受けて学び得たこともあります、再度自分の保育を振り返り、環境作りや声かけ等どのようにしていきたいのかが自分の中で明確になりました。まずは日頃の活動時の子ども達に対しての声かけをより良いものになるよう見直し、今後の保育にも生かしていきたいです。

年少 2年目

きんなん幼稚園様研修に参加して

今回、きんなん幼稚園様を見学させていただき、全ての活動の基礎を作ることと、活動に取り組む雰囲気の習慣化が大切だと改めて感じました。体育ローテーションでは、まずは並ぶ事から、音楽指導は音を聞く事から、日課活動では椅子に座る事からなど、簡単な様に思いますが、実際に自分の保育をふり返るとできていない事もあたので、活動の土台をきちんと作った上で取り組めるよう、声掛けや活動のペースを考えなければいけないと思いました。そして、きんなん幼稚園様では、できていない事を一人一人丁寧に指導する事によって、苦手を克服するだけでなく、個人が集団となつた時、質の高い集団となり、自分は集団の中の一人なんだという自覚を持っている様に感じました。

また、今年度私は、音楽指導を中心に保育をさせていただくので、音楽指導について学ばせていただきました。下の学年から順に見させていただき、やはり基礎作りから徹底していく、年少時に基礎をしきり練習して、年中年長は基礎練習をしながらレベルを上げていくよう長い目線で見てカリキュラムが組まれていました。鍵盤練習では苦手そうなお友達が見受けられましたが一度音楽担当の先生と別室で練習し、できるようになってから集団に戻るよう指導していました。集団に戻りみんなと同じように演奏できた瞬間の笑顔は生き生きとしていてとても印象的でした。

音楽はどうしても行事に向けて練習をつめ込みがちですが、その時だけでは上達せずできない事に苦手意識を持ってしまうお友達もいます。

きんなん幼稚園様ではそうならないよう日々の日課で発声、鍵盤以外に木琴を週に2回など、日課とは別に音楽の時間を設け、楽器に触れる事によってどのお友達も無理なく楽しく練習に参加できるよう工夫していました。合奏では自分の担当楽器に夢中になり、自分だけの世界に入ってしまうお友達もいますが、先生も子どもたちも一つになつてみんなで曲を完成させ、楽しく、達成感のある活動にできるよう私自身の指導方法を見直していきたいです。

そして、きんなん幼稚園様での研修は2回目ですが、今回、園全体の落ち着いた雰囲気作りには、園での約束事をきちんと作り守る事だと気づきました。そのため、保育者が大きな声を出さなくとも先生が話しあじめたら静かになる事など、決まりが習慣化されていて素晴らしいと感じました。決まり、ルールを守る事は生活の基礎なので、どの活動も小さな事から丁寧に積み重ね、個人から集団へと成長できるよう今回の研修を日々の保育に活かしていきたいです。

2年目

H3C 5.10

ぎんざん幼少症候群 症状と検査

じの活動に対しても先生方が短い時間の中で多忙だった。ハーモニカを見て以来、今もお手を貸す事で指導する先生たちの姿がとても印象的でした。トロティオノでは年中組を見てやっていたのでヤーコンサートで行う曲が弾けるように毎日から行っているだけじゃなく高い音や低い音などを弾いていたりシャープを取り入れたりといきなり曲の練習をするのはよく毎日の積み重ねで音程たちも弾けるようになっていくのが楽しかった。

全体が強くて全員の手を捕ままで行い席の周りにて先生から卓上しているかを見て指の番号が一人一人細く指導されていて三回も出来なかったで終わるにてなく最初が来はった14歳が来る時にいたるまで全く言めてくれたで終わるにかかわらずこのままでは自信と元気溌々活動が進むていいと思いました。

修業二年生の3月議などはまだ早く終わったから、遅くではなく1ヶ月のところ
で来られた。遅れていいと言つて先生方が手渡さうに係合して、これをこの
方針に反映されました。遅くに終わったから、遅めなので、遅くなければ、早めに草に行つて
それが出来たら、遅れてあるなど遅めの方を見直して行つて良しました。

綴喜園長先生のお話の中にあた「共に感動か」という言葉が自分の心に響きました。先生会いにワクワクになり素敵なお話をされてワクワク感動かいたゞきもに先生大好き、先生のそばにならたいなど言われた時に喜びを感じて感動かいたゞきもに共に感動かおこなには云幼稚園の先生たちからこそ出来るにこだわ私は思いました。研究会に参加してからでありますと云幼稚園の先生に会ってお話しに思っては素敵仕事かできて喜んだ感覚、これからも子どもたちと充実した生活を送りして子どもたちが毎日楽しく過ごしていくように日々子どもたちと一緒に学び成長に行く所思いました。又まだ2年目で経馬鹿は浅いですが5年、10年と続けて子どもたちに「先生にならたい」と憧れの存在にはなるかと思われます。

年中 2年目

ぎんちゃん幼稚園様 研修に参加して

今回の研修で驚いたことが二つありました。一つ目は年長組の木琴練習です。保育者のピアノの音を聞きながら半音に上がって演奏するのは素晴らしいですし、年少からの積み重ねがあるからだと感じました。また、鍵盤で練習している曲を木琴でも行っているので、子ども達も覚えが早くなると感じました。出来ない子は、保育者が同じところを弾き、場所を自ら意識して練習出来るよう促していました。器楽の練習や、普段の鍵盤練習で子どもが自ら意識して取り組めるよう実践してみようと思いました。

二つ目は体育ローテーションです。室内でしたが、ホール、園舎までを工夫して無駄な動きが少ないと感じました。子ども達も一つ一つのポイントや、どのような動作をしたら上手に出来るかを理解して行っているように見えました。津久井幼稚園の子ども達は「一番に終わった子がかっこいい」と思っている子が多くいると思います。逆に、ぎんちゃん幼稚園の子ども達は、「一つづき、ちゃんと出来ているのがかっこいいから一番」ということを保育者が「声掛けをしている」と思いました。なので跳び箱、縄跳び等が出来る子が多いと思いました。

普段のサーキットの意味、どのようなお友達が「かっこいいのか子ども達と確認して取り組めたいと思います。また、出来るまで途中で諦めてしまう子も多いので、最後まで取り組む大切さ、失敗しても何度も挑戦する気持ちの大切さを日々の保育で伝えていきたいです。今回の研修で感じたこと、自分でも実践出来ることを考え、来週からも頑張ります。

年長 二年目

ぎんなん幼稚園様研修に参加して

今回ぎんなん幼稚園様を見学させていただき、基本的な生活習慣を確実に身につけることが大切だということを改めて実感しました。身の回りや使う物などを整頓しておくこと、話を聞くときは手を止め顔を上げて目を見て話を聞くこと、立つ座るの動作を素早く行うこと。そういったことを当たり前としててきてこそ、様々な活動をスムーズに行えるのだと感じました。

活動の切り替え時に、ピアノや放送、音楽等が流れ片付け準備を始めていたが、そういった合図がなくても子供達がなにを用意すべきかをきちんと覚えていて、自分で気がついて準備を始めている場面が多くあり驚きました。日課活動・発声が終わった後、先生が読本等を片付けるように言った後、他に指示を出さず黙って教卓の上にプリントを入れるファイルと鉛筆を置いていました。子供達は机の箱に読本等を順番に整頓して片付けた後、水分補給・トイレを済ませ部屋に戻ってくると、友達と少しおしゃべりをしたりしていました。その中で教卓の上に置かれているものに気づいた子があり、その子が準備を始めると周りの子たちも連鎖的に気がつき、すぐに全員がプリントを始められる状態になり、静かに座って先生の言葉を待っていました。子供達が次に何するのと聞いたり、先生が次のことを細かく言ったりせずに次の活動に移っていました。また、先生はあまり話さず声掛けも最低限だったためか、たとえ子供達がお喋りしていても先生が話しだすとすぐに切り替えができていました。1日の流れに無駄が無く淡々と進めていて、日々繰り返していることが確実を子供達に身についていました。津久井幼稚園では、先生達が説明をしそうたり、声を出しすぎてしまっているのではないかと、比べて見て思いました。自分のことを振り返ってみて、「次は○○をするので○○を用意してください」と言った後、少し行動の遅い子に対しアレしてコレしてと言ってしまっていたり、子供達が発する言葉に細かく反応したり、余計なことをたくさんしてしまっていたのではないかと気づきました。また、騒がしくなってきたときに、声を張ったり、拍手やピアノの音で注意を引いたりしていて、その場の対処しかしていなくて、そもそも騒がしくならないようにする工夫を充分にできていないことに気づきました。

子供達が基本的な生活習慣を当たり前として行えるよう、まずは自分たちがお手本として見せていかなければいけないと思いました。

年中2年目